

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

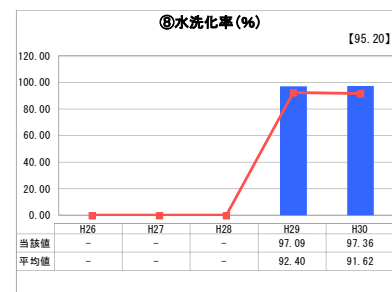
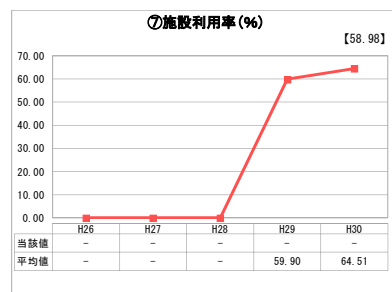
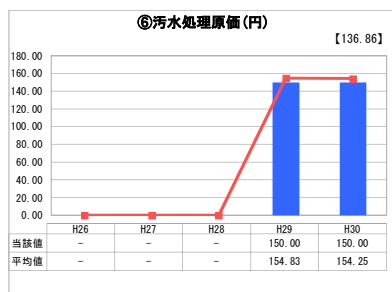
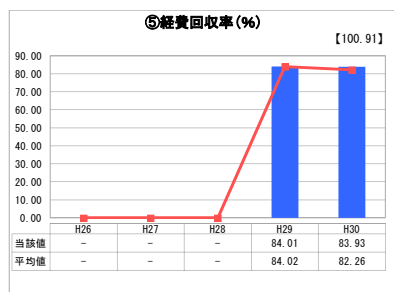
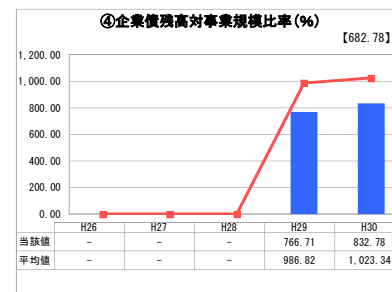
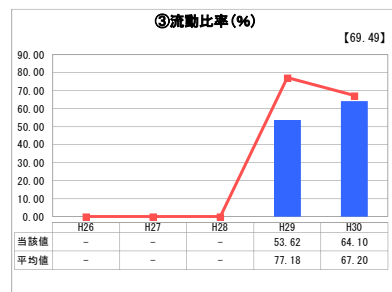
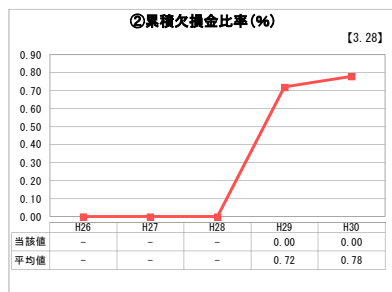
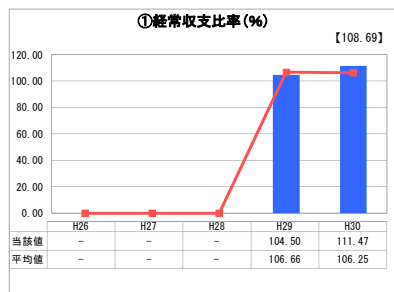
神奈川県 南足柄市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	55.93	73.42	97.50	1,747

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
42,687	77.12	553.51
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
31,214	6.24	5,002.24

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

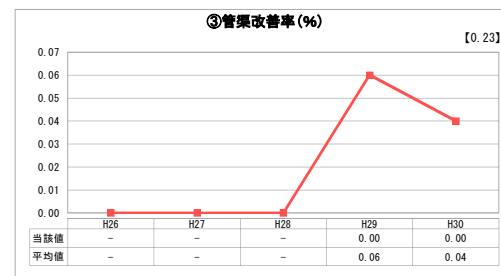
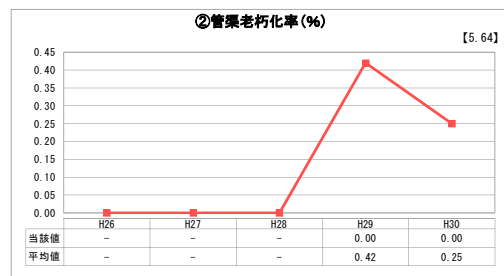
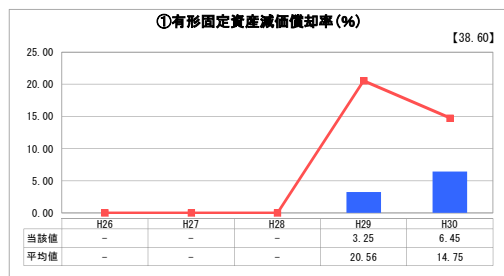
### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を超え、②累積欠損がない状態は良いとも言えるも、水需要の減少による使用料収入の減少が見込まれるため、安心はできません。  
 ③流動比率は類似団体や全国平均と比べても大差はないものの、短期的な支払いにおいて資金的に余裕がない状態です。  
 ④企業債残高対事業規模比率は類似団体より低くなっていますが、全国平均よりは高い水準です。今後も未普及地域の整備や更新を行うことで多くの費用が見込まれ、それに伴い借入が増加するため、比率が高まることと予想されます。  
 平成28年度に料金改定をするも⑤経費回収率はまだ低い状態で、依然として⑥汚水処理原価と使用料単価に差損を生じている状態です。今後は水需要の減少により、使用料収入の減少が見込まれ、⑤経費回収率の悪化が予測されます。  
 本市は処理施設を有していないため、⑦施設利用率はありません。また、⑧水洗化率については接続率の向上に努め、高い率を維持しております。

### 2. 老朽化の状況について

平成29年度に地方公営企業法を適用したことにより、累計減価償却費は低く、①有形固定資産減価償却率については、非常に低いものになっていますが、毎年上昇して見えます。  
 現時点では耐用年数を超える管渠がないため、②管渠老朽化率と③管渠改善率はありません。しかしながら、今後は本格的な更新時期を迎えるため、財源と投資を考慮しながらの更新計画が必要となります。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

全国的な水需要の減少による使用料収入の減少や、維持管理費の増大などで経営は厳しくなると予測されます。  
 今後は老朽化した管渠のみならず、下水道施設の長寿命化に対応するべく更新費用の確保が必要です。そのため、将来の整備費用を算定し、的確に財政状況を把握する必要があります。  
 適正な維持管理費や使用料について継続的に検討し、安定した下水道事業運営を目指し、計画的に整備を進めてまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。